

[成果情報名] 露地ビワの果実腐敗の発生部位と防除時期

[要約] 露地ビワの果実腐敗の発生部位は果頂部（へそ）付近および果実内部から腐敗するものが多い。果実腐敗の発生を抑えるためには袋掛け前までに防除を行う。

[キーワード] 露地ビワ、果実腐敗、腐敗部位、袋掛け前、防除

[担当] 長崎県果樹試験場・病害虫科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール fbyoty@afes.pref.nagasaki.jp

[区分] 九州沖縄農業・果樹、病害虫

[分類] 指導

[背景・ねらい]

露地ビワの果実腐敗の防除は現行では開花期～幼果期（袋掛け前）および収穫14日前に行われている。しかし、近年の露地ビワでの腐敗果発生実態調査の結果から果実腐敗の発生部位は果頂部（へそ）付近および果実内部からが多いことが明らかになり、腐敗果の多くは開花期から幼果の時期に病原菌が感染すると思われる。したがって従来から行われている収穫前（14日程度）散布の防除効果について再検討する。

[成果の内容・特徴]

- 1．露地ビワの果実腐敗の発生部位は、果頂部（へそ）および内部から腐敗するものが約70%程度と多い（表1）。他は虫の食害、裂果部等の傷から腐敗症状へ進行するものがある。
- 2．ミクダ[®]ソルバ[®]シ酸塩水和剤を袋掛け前に散布した区では腐敗果の発生が少ない。一方、ミクダ[®]ソルバ[®]シ酸塩水和剤およびチオファネートメチル水和剤を収穫14日前に散布した区では無散布区と腐敗果の発生が同等であり、防除効果は認められない（表2）。
- 3．以上のことから腐敗果防止のためには袋掛け前までの防除が重要であり、収穫14日前の防除では効果が期待できない。

[成果の活用面・留意点]

- 1．露地ビワの果実腐敗防止対策として活用
- 2．春葉伸長期の葉における灰斑病の防除は重要である。

[具体的データ]

表 1 露地ビワに発生する果実腐敗の発生部位

調査年	調査圃場数	調査果数	腐敗果数	腐敗部位		
				果頂部 (%)	内部 (%)	合計 (%)
1999年	18	2042	259	52.1	24.3	76.4
2000年	18	2371	403	54.8	14.1	68.9
2001年	17	2124	151	47.7	23.8	71.5
2002年	16	1953	113	64.6	13.3	77.9

表 2 袋掛け前および収穫前14日前散布のビワ果実腐敗防除効果

薬剤名	散布時期		調査 果数	収穫時～収穫8日後 までの累積腐敗果率 (%)
	袋掛け前	収穫14日前		
	3/29	5/21		
ミナクジナルハ [®] 珪酸塩水和剤 1000倍	-	-	145	1.4
ミナクジナルハ [®] 珪酸塩水和剤 1000倍	-	-	148	6.8
チオファネートメチル水和剤 1000倍	-	-	167	8.4
無散布	-	-	118	9.3

[その他]

研究課題名：果実腐敗の発生要因の解明と効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：2002年度（平11～15年）

研究担当者：小嶺正敬、早田栄一郎